

10月1日、東証1部上場の建設会社の手がける複数の工事現場に、公認会計士がやってきた。2015年4～9月期決算の締め日の翌日、工事の進捗状況を確認するためだ。「現場視察の通告は1週間前、ほぼ抜き打ちだった」と建設会社の役員は話す。

複数の決算期にまたがる大型の工事やシステム開発では、進行度合いに応じてコストを見積もり、売り上げを計上する「工事進行基準」というルールが使われる。総じ

2/3

わかる監査

不正に向き合う ②

リスク項目を重点チェック

て企業側の見積もりがベ
ースとなり、不正の温床
になりやすい。不正会計のリスクを見
つけ出すため、公
認会計士はチーム
を組んで経営陣か
ら現場責任者まで
聴取したり、現場
を調べたり様々な
手法を使う。リス
クがありそうな項
目を重点的にチェ
ックするのが「リ
スク・アプローチ」
と呼ばれる手法
だ。

不正リスクが潜む項目

項目	想定される 事態	実際の不祥事 (力コ内は 発覚した年)
工事進行基準を使 った損失先送り	コストの計 上を先送り	東芝 (2015)
過度な業績連動報 酬やノルマの圧力	架空の売り 上げを計上	リソー教育 (2014)
のれんを使った損 失先送り	実態のない 価値を水増 し	オリンパス (2011)
非上場の子会社や 関連会社の株式	実態よりも 過大に計上	三洋電機 (2007)

東芝で問題にな

「会社見積もり」覆せない例も

つたスマートメーカー
(次世代電力計) 通信シ
ステムでも進行基準が隠
れみになった。安値受
注の時点で赤字が想定さ
れたのに、東芝は収益が
出ると主張。監査法人は
見抜けなかった。

会社が主張する将来の
収益見通しといった見積
もりを覆すには「明確な
証拠が必要。訴訟も辞さ
ない覚悟がいる」(大手
監査法人の会計士)。最
前線では詰め切れず、「監
査契約を失うのが怖い」
と二の足を踏むケースも
あるようだ。

買収した企業の価値が
問題になることもある。
11年に粉飾決算が発覚し
たオリンパスでは買収し
た子会社の「のれん」を
過大に計上していた。調
査委員会は報告書で「オ
リンパスが依頼した外部
専門家の報告書をあずさ
監査法人が内容を精査せ
ず、(決算を) 適正とし
た」と問題点を指摘した。
オリンパス事件を機に監
査基準が見直され、13年
には不正リスクのある企
業の重点チェックが監査
法人に義務付けられるよ
うになった。